

⑤ 平成 24 年度「自立と体験 3」実施報告

平成 25 年 3 月 13 日

学部長 250313-12

平成 25 年 3 月 13 日

学長 小川 哲生 殿

「自立と体験 3」担当学長 佐久間 美智子
明星教育センター長 高島 秀樹

平成 24 年度「自立と体験 3」実施報告及び
平成 25 年度「自立と体験 3」シラバス改訂案について（報告）

標記の件について、全学キャリア教育「自立と体験 3」実施報告及び次年度シラバス改訂案を
まとめましたのでご報告いたします。

記

1. 平成 24 年度「自立と体験 3」実施報告書（ダイジェスト版）
2. 平成 25 年度「自立と体験 3」シラバス改訂案

以上

平成 24 年度全学キャリア教育「自立と体験 3」実施報告書（ダイジェスト版）

1. 総括

「自立と体験 3」は平成 24（2012）年度後期に、2 年次を対象とした科目として開講された。短い期間で授業内容を構築したが、今後の課題となる面も含みつつ、「自立と体験 4」と共に明星大学におけるキャリア教育の第一歩を踏み出したことの意味は大きいと考えられる。

「自立と体験 3」には、1 年生前期に開講されている「自立と体験 1」をうけ、①大学での学びと自分の将来を結びつけて考えるきっかけを作ること、②自分の将来を具体的に考えるきっかけという 2 つの意味合いがある。また、大学での学び、「自立と体験 4」での就職活動あるいは社会人基礎力を身につけるための基本的な学びの方法を習得するという側面もある。いずれにしても、就職活動のスキルや方法ではなく、働くことの意味、自分の将来の生き方を考えることが「自立と体験 3」となっている。（詳細は、学部長会資料の学部長 231208-3、241108-13-1、241108-13-2 を参照。）以下、実施報告をする。

2. 授業実施および運営について

（1）授業内容、担当教員、履修者数

「自立と体験 3」の授業は、問題解決演習を中心におき、個人ワーク、協同学習、発表、振り返り、という「自立と体験」で用いられている方法が中心となっている。

授業は、明星教育センター所属の特任・常勤教員 3 名と非常勤教員 1 名、そして株式会社リアセック（以下、外部委託）より派遣された外部委託講師 5 名の計 9 名が担当した。

履修者は、経済学部が 99 名、造形芸術学部が 80 名、理工学部・人文学部・情報学部・経営学部・教育学部が 30 名の合計 208 名であった。

（2）授業内容の改善

右記のシラバスをもとに、明星教育センター教員が、外部委託講師を統括するスーパーバイザー及び外部委託の運営担当者との間で毎週打ち合わせを重ねながら、授業実施前に授業進行上での改善を図った。特に、大きな修正点としては、学生が授業内容に積極的に参加しやすいように修正をかけた下記 2 点である。

①欠席者向けの「欠席者用シート」準備・作成

受講学生は全部出席するように促しつつも欠席する学生がいるのも事実である。授業構成上、問題解決演習

は、基本的に 3 回連続の授業構成（1 回目；情報収集、2 回目；情報整理、3 回目；発表）で行う。例えば、1 回目の授業に欠席すると、2 回目以降の授業内容に参加しにくい状況が見受けられた。当初は、

平成 24 年度シラバス

週	枠組み	内容
1		授業全体の概要、取り組み方 / キャリアデザインについての考え方 / 社会との関わり
2	問題解決技法	問題解決 I：体験を通して事実を見る
3		問題解決 II：課題を考える
4		問題解決 III：解決策を考える
5	集団活動研究	チーム活動の基本
6	問題解決演習 I (基礎 1)	①問題解決実践（基礎 1）
7	問題解決演習 II (基礎 2)	②チーム活動振り返り・学習内容の整理
8		③社会との関わりを考える
9	問題解決演習 III (発展)	①問題解決実践（発展）
10	問題解決演習 III (発展)	②チーム活動振り返り・学習内容の整理
11		③社会との関わりを考える
12	まとめ	獲得した考え方や能力の整理・今後の目標設定

出席していた学生が欠席した学生に教えるなどの相互作用を期待したが、クラスによっては欠席者数が多く出てしまう場合もあり、授業内で教え合うといったことが難しくなった。そのため、1回目の情報収集の授業で実施した内容をA4サイズ1枚にまとめた「欠席者用のシート」を準備した。2回目から出席した学生に配布し、1回目の内容を把握してもらうような配慮からである。結果的には、欠席者が授業内容の理解がしやすくなったとともに、他方で出席していた学生が、前回の内容を振り返るための資料としても使用することができ、授業上での有効ツールとなった。

②授業内容の改善

「自立と体験3」では、問題解決演習を3回連続授業1セッションとして3回演習を行った。その際、授業内容を、受講している学生の様子から、学生の学びや気づきをより促せるよう下記のように一部修正していくこととした。

結果として、学生にとって、より身近でのテーマ設定への変更は、演習など共同学習での学びを促す上では効果があったと考える。

問題解決演習Ⅱ：「広告代理店の社員の仕事をもとに、グループでキャラクターのコンセプトとネーミングを考える」のテーマに内容の追加

【改善策】共同作業体験を深めるために、実際にキャラクターのイラストを描き、グループでアイデアを形にする内容を追加した。

【結果】印象に残った授業に「キャラクターづくり」を挙げた学生も多く、チーム活動が活性化するきっかけとなった。

問題解決演習Ⅲ：「理系の学生に合わせてシステム開発に関する仕事を上げる予定」から身近なテーマへの変更

【改善策】理系の学生の受講数が少なかったことから、システム開発に関する仕事が学生にとってイメージしにくく馴染みのない仕事であった。授業内で学習したことを自分たちで活用する経験を持たせたいという考えから、「大学祭の来場者数目標を達成するにはどうすれば良いか」というテーマに変更した。学生が主体的に問題解決に取り組めるように、情報もすべて教員が用意するのではなく、学生自らが関係者インタビューや関連する情報収集をするようにした。また授業の進行にあたって、従来の教員が細かくパワーポイントのスライドで指示する方法を変更し、学生が自分たちの力で進めて行けるように配慮した。

【結果】共同作業を取り入れるために、改善提案を模造紙にまとめる作業も取り入れたことで、学生の反応も良くなった。

(3) 外部委託講師による授業の様子

外部委託講師は、外部委託講師を統括するスーパーバイザーと授業実施日(金曜日)の午前中に綿密な内

容・授業進行について打ち合わせを行って授業に臨むこととなる。外部委託講師からの進行上の疑問を解決し、詳細な授業内容と進行モデルが記載された教案を基に授業を行う。事前のレクチャーを通じて、進行上での問題点を抽出し、各クラスの学生の状況等を加味しながら、改善を図り授業に臨んでもらっていた。それ故に、どのクラスも授業の進行が同様となり、授業内容の差異も見られなかった。

担当する講師たちが同時間で同一内容をやり終えなくてはならないということに注力し、学生の様子をみながら授業を行うというゆとりがなくなり、学生に対して未消化のまま授業が進んでしまった授業回も結果的に起きてしまったという課題もあり、次年度に向けて改善したいと考える。

3. 実施結果について

(1) 出席率および単位修得率

出席率は、授業15回全体平均が71.6%、単位修得率は83.4%(151名)であった。

なお、履修登録者208名のうち、授業に1回も出席していない学生が27名いた。出席率と単位修得率は、履修者数208名からその27名をのぞいた181名で計算している。

(2) 学生へのアンケート結果より総括

授業終了時に、「自立と体験3」を受けた学生に対して授業に関わるアンケート(設問9問)を実施した(資料1)。ここでは、特に授業に対する学生の意識について挙げてみたい。

- ①「あなたはこの授業に出席して、どのように思いましたか?」と「あなたはこの授業にどのように取り組みましたか?」という2つの設問に対して、それぞれ、前者は88%、後者は94%と授業を受講した学生にとって肯定的な回答を得られたことは評価したい。
- ②授業を通じての考えるきっかけになった設問については、「授業を通して自分の生き方を考えるきっかけができましたか?(76%)」、「働くことを通じて社会に貢献するイメージが作れましたか?(82%)」、「社会に出て働くことの中に、楽しさを見つけられそうですか?(76%)」とそれぞれ肯定的な回答を得られた。「自立と体験3」では「社会への関心、仕事や将来を考えるきっかけ」という点において4分の3以上(75%)の学生が肯定的だということである。
- ③自由記述の「この授業でどのようなことが一番身に付いたと思いますか?」という設問では、表現はいろいろであるが「コミュニケーション力」を回答として挙げる学生が多かった。これも、「自立と体験3」の授業内容・方法等の特性が反映したものであろう。

4. 次年度に向けての改善について

実施結果をもとに、次年度に向けては下記の改善事項をもとに「自立と体験3」のシラバス改訂を行っていきたい。

(1) 授業内容における改善事項

- ①90分授業での内容(ボリューム)調整と学生が考える時間を確保できる授業構成。
- ②学生に対する「自立と体験3」の意義を明確に伝える必要性。

③学生に身近なテーマの設定への改善。

(2) 運営について

①学内への PR 活動を検討

多様な学生が互いに刺激し合える学部学科横断型のクラスが編成できるように、受講学生の授業アンケート内容を公表するなど、学内への PR 活動を検討したい。

②各学科とのパイプ作り

学科主任あるいは就職担当教員との情報交換を行いながら直接 PR する機会をいただき、学科のキャリア教育の現状を把握し、連携を深めるようにしていきたい。

③履修者の追跡調査を行い、結果をみながら授業改善を図る。

④学内部署として、特にキャリアセンターとの連携をより一層強化して情報共有を図っていきたい。

⑥体系的なカリキュラム

「自立と体験 1」、「自立と体験 2」、「自立と体験 3」、「自立と体験 4」の科目を明星大学の体系的キャリア科目として、内容及び関連をより明確にすることを今後の検討課題としていきたい。「自立と体験 2」は学科科目として成果を上げつつあることを前提に、学生にとってより成果の上がる体系的キャリア科目に改善することを検討する。特に明星教育センター所掌の「自立と体験 3」と「自立と体験 4」に関しては、今年度の結果を踏まえ改善していく。

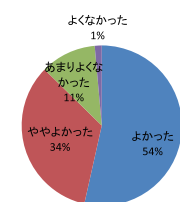
⑦今後、学内で教案・教材の作成および授業運営をしていくことについての検討。

以上

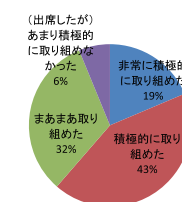
添付資料

資料 1 : 「自立と体験 3」授業アンケート結果

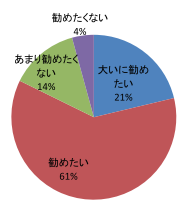
(1) あなたはこの授業に出席して、どのように思いましたか？



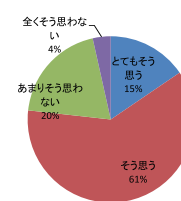
(2) あなたはこの授業にどのように取り組みましたか？



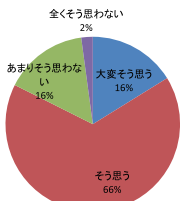
(3) この授業を後輩にも推薦しますか？



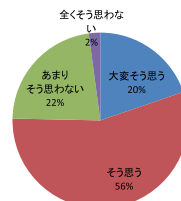
(4) 授業を通して自分の生き方を考えるきっかけができましたか？



(5) 働くことを通じて社会に貢献するイメージが作れましたか？



(6) 社会に出て働くことの中に、楽しさを見つけられそうですか？



平成 25 年 3 月 13 日

平成 25 年度「自立と体験 3」シラバス改訂（案）

平成 24 年度の実施結果をもとに、平成 25 年度の「自立と体験 3」のシラバスを下記のとおり、変更し、授業内容と運営面について改善を図っていききたいと考えている。

週	授業名	内容
1	オリエンテーション	授業全体の概要、取り組み方／大学生活を振り返る／社会人基礎力チェック
2	表現技法 1	自分の意見を述べる コミュニケーションの基本／自己表現演習
3	表現技法 2	話し合って結論を出す 合意形成演習 / 討議効果
4	チーム活動技法	ワークブックを理解する チーム活動演習 / PDCA
5	問題解決技法（1）	課題発見 / 問題解決演習 / 解決策の検討
6	問題解決技法（2）	問題解決のプロセスを学ぶ 問題解決の技法の整理をする / チーム活動の振り返り
7	表現技法 3	社会的な問題を話し合う 議論を深める / ニュースを用いて社会について話し合う / 社会への関心
8	問題解決演習 基礎 1	問題点・課題を発見する [演習テーマ]：「学園祭の来場者を増やすには？」 / 問題解決技法の活用
9	問題解決演習 基礎 2	問題点・課題の解決策を探る 解決策の構想 / プレゼンテーションの基本
10	問題解決演習 基礎 3	解決策のプレゼンテーション プレゼンテーションの準備、発表 / 演習の振り返り
11	問題解決演習 発展 1	問題点・課題を発見する [演習テーマ]：「社会や就職に関するテーマ」 / 問題解決技法の活用
12	問題解決演習 発展 2	問題点・課題の解決策を探る 解決策の構想 / プレゼンテーションの準備
13	問題解決演習 発展 3	解決策のプレゼンテーション プレゼンテーションの発表 / 演習の振り返り（個人発表）
14	キャリアデザイン	自分の持ち味を探る キャリアデザインの考え方 / チームの中での自分を振り返る / 自分の持ち味
15	総まとめ	1・4 回の振り返り / 社会人基礎力チェック / 3 年次の抱負 / 行動計画を立てる

【参考】平成 24 年度

週	枠組み	内容
1		授業全体の概要、取り組み方 / キャリアデザインについての考え方 / 社会との関わり
2		問題解決 I：体験を通して事実を見る
3	問題解決技法	問題解決 II：課題を考える
4		問題解決 III：解決策を考える
5		チーム活動の基本
6	問題解決演習 I (基礎 1)	①問題解決実践（基礎 1）
7		②チーム活動振り返り・学習内容の整理
8		③社会との関わりを考える
9	問題解決演習 II (基礎 2)	①問題解決実践（基礎 2）
10		②チーム活動振り返り・学習内容の整理
11		③社会との関わりを考える
12	問題解決演習 III (発展)	①問題解決実践（発展）
13		②チーム活動振り返り・学習内容の整理
14		③社会との関わりを考える
15	総まとめ	獲得した考え方や能力の整理・今後の目標設定

以上